

基調講演

ディスカッション

Discussion

(司会 伊藤美智子) 非常に貴重なエビデンスに基づいたご講演をいただいた。特に、立って会議をしようというご提案は、非常に歓迎したいと思う。いつも会議が長くて困っているの、学長に早速提案したいと思う(笑)。

フロアの方からご質問あるいは何か先生にお話しいただきたいことがあれば挙手をいただきたい。

(飯田) 帝塚山学院大学の飯田です。いすから離れようというキャンペーンを見せていただいたが、そのキャンペーンは国レベルなのか、州レベルなのかを教えてください。

(Brown) これは連邦政府が2年前に行ったキャンペーンである。全国的なキャンペーンで、「子どもたちよ、もっと動こう」ということで、すべての州で行われた。お金は連邦政府から出ている。つまり、国の中央政府から出た。

(伊藤美智子) もうお一方どうぞ。

(伊藤章) これはコメントにもなるが、不活動の子どもをどのように導いたらいいのかというと、体育の授業が利用できるだろうというお話だった。今、日本の体育の授業は、小学生のころからとにかくスポーツを楽しませるという傾向にある。生涯にわたってスポーツを楽しむことの大切さは、非常に重要であり、体育の授業で教えるべきことだとは思う。しかし、それ以前に、将来への可能性や現在の自分の身を守るという安全性の確保ということから、子どもに基本的な運動能力を身に着けさせる授業がとても大切だと思う。

それと、子供のときから生涯にわたる運動の重要性を、講義でも教えるべきだろう。つまり、

健康教育のようなものである。先ほどのお話にもあったが、放課後、いろいろなスポーツを楽しむことの重要性は私も認めるが、放課後にスポーツを楽しませるために、体育の授業でどの程度スポーツを紹介したらいいのか今後の検討課題だろう。放課後にスポーツを楽しむということの後に、卒業した後、身体活動をどのように確保するのだが、やはり基本には体育の授業における教育にあるかもしれないと思う。そのような取り組みは、オーストラリアでも体育の授業の中で具体的にされているのか。

(Brown) 皆さまもお分かりだと思うが、体育の授業では楽しみをまず教えなければならない。そして、スキルを高めてあげなければならない。バスケットボールをするには、どの子どもたちもボールを受け取れなければいけない。そして、テニスをするためには、ボールを打たなければならない。そして、スイミングクラブに入るためにも、泳ぐことができなければならない。従って、投げたり、受け取ったり、跳んだり、走ったりというスキルは、できれば小学校また中等教育において発達させていく必要がある。このようなスキルがなければ、スポーツに参加することがなかなかできない。

もちろん楽しみが重要である。競争というプレッシャーなくして楽しむことも難しい。競争も重要だし、競争なしの楽しみも重要である。技能の発達も重要である。そして、フィットネスというのも重要である。体力が重要である。ムチを打ってもっと走れとか、もっと跳べというような形なくして、体力をつけてあげるのは難しい。子どもたちは体力訓練が好きではない。

そこでオーストラリアでは、子どもたちが楽しめるような体力づくりを考えている。男子には武道を奨励している。武道を奨励することに

より、強くなっている。そして同時に体力やスキルをつけている。女子の場合は踊ることが大好きである。従って、エアロビクスなどを導入して、楽しみながら体力をつけてもらっている。前はフットボール、クリケット、サッカー、バスケットボール、ホッケーといったチーム編成のものばかり奨励していたが、それだけではなく、もっとたくさんのスポーツや活動を導入している。子どもたちの年齢において魅力的なスポーツを導入している。例えば、テニスを学校で教えても、卒業したらテニスクラブがない、あるいはテニスクラブがあっても会員費が高すぎるということがあれば、せっかくテニスを習っても無駄になってしまう。従って、卒業した後どのような可能性があるか、チャンスがあ

るかを考えながら、カリキュラムの選択をしていけばいいと考える。

簡単な答えはないと思うが、まず先生が最初におっしゃった「楽しむ」ことが重要だと思う。ダンスのようなスポーツは競技ではないので、プレッシャーなく体力をつけることができる。

(伊藤美智子) 日本でも体育の授業において子どもたちの体力の二極化という問題に直面している。今回のBrown先生のお話をお伺いすると、生涯にわたって生活の中での体育という考え方を、私たちはもう一度考え直さなければいけないのではないかというチャンスをいただいたように思う。